

第八期修了制作・論文 概要書

氏名	梶原洋子	テーマ	酒津をアートの発信地に
目的	無人状態で、老朽化が進む古民家M邸を保存・再生・活用する。 この活動を起点として、酒津地域を児島虎次郎のアトリエを軸としたアートの発信地として発展させていくことを目指す。		
方法	酒津地域の持つ歴史的、芸術的価値を調査し、その中でM邸が担う役割を明らかにする。 その後、調査結果をM邸に価値を感じていない家主に伝え、M邸保存の重要性を共有する		
まとめ	<p>I 歴史と環境</p> <p>酒津は岡山県の三大河川の一つ高梁川に面し、倉敷の配水源である。 大正14年に建設された東西用水管理棟は近代洋風建築で、「岡山県近代化遺産」、 「東西用水酒津樋門」は現在も活用されている国内最大級の樋門として「土木遺産」、 「東西用水」は「全国疎水百選」に認定されている。 また、豊かな水と緑に囲まれ、かつては有力者の別荘地だったようだ。</p> <p>II 古民家活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児島虎次郎アトリエ：大原家の別邸を虎次郎にアトリエとして提供。 2005年より大原美術館が始めた、若手作家支援事業「ARKO」において若手作家の制作場所として現在活用されている。 ・ T邸：築200年を越す古民家で、備中中山藩の流れをくむ先祖が酒津の草分け的存在だそうです。 現在家主は県外に居住し、空家は分家が管理している。家主の祖父が虎次郎のアトリエの木を伐ってあげたお礼に、虎次郎から絵を数枚もらったこともあるそうで、絵のモデルはどここのだれだれさんといった話を親戚筋の人が聞かせてくれた。 ・ O邸：築120年。家主は県外に居住。gエッセンスという建築・インテリアコーディネートグループの事務所として使われている。家主の祖父は現天皇にテニスを教えた人だそうです。 ・ 著名な画家のアトリエ：50歳まではパテシエとして活躍。以後画家に転向し、酒津に移り住む。 ・ 日本音劇座：昭和63年備中神楽に電子音楽を加えた芸能を発案し、「音劇」と銘打つ。 <p style="text-align: center;">40</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とら醤油：高梁川の名水を使い、江戸期創業 <p>III まとめ</p> <p>上述のようにM邸周辺は景観も抜群で、周辺古民家ではすでにユニークな芸術活動が開始されている。虎次郎のアトリエに隣接するM邸はアトリエと強いネットワークを持つ関連施設として活用することが可能である。</p>		